

評価項目	評価領域	担当	評価計画		自己評価			学校関係者評価	
			本年度の目標	目標達成のための方策	評価	達成状況	改善策	評価	コメント
学習と部活動の両立	基礎学力の定着	教務 進路指導 商業科 学年会	わかるたのしさ（基礎学力の定着）を実感させ、自ら学ぶ力を身に付ける	・授業互見や授業アンケートにより、わかりやすい授業への改善（U・A・I） ・シラバスの有効活用	B	授業互見では、小グループで実施することで授業参観の機会が増え、授業展開の工夫など参考になった。学期ごとにテーマを設けて実施したことで、テーマを意識した授業改善の意識が高まった。	授業互見では、次期学習指導要領で求められる学力観に則ったテーマを設定して、引き続き実施する。生徒からの評価である「授業アンケート」を計画的に実施し、授業改善に役立てる。	B	授業では、個々の生徒に対応して指導されている様子を聞いている。各種評価について、先生方の評価が低い、生徒・保護者の評価は高いので、取り組みとしては良いのではないかと、基礎学力の定着レベルを認識して指導して欲しい。小グループによる授業互見は良い取り組みだと思うので、継続して欲しい。ただ、質問しやすい先生と、そうでない先生がいると聞いており、それが気になる。
			理解不十分な生徒に対して補習等を実施し、学力の向上を図る	・放課後や長期休業を活用した指導の推進 ・要支援生徒へのサポート ・学び直しの機会の複数回設定	B	長期休業中や定期試験前の放課後を活用して指導を実施し、学年会や教科担当者の早期の対応により成果をあげた。マナトレの活用により、中学の学習内容の振り返りを行い、基礎学力の向上につながった。	生徒の状況や実態に応じた計画的な個別指導を継続していく。生徒の自己肯定感を高め、主体的に学ぶ力の育成を目指す。		
家庭学習を定着させ、自学自習の態度を養う			・適切な課題や宿題による、学びの意欲の喚起 ・漢字・英単語・一般常識テストなどによる基礎学力の向上	B	教科ごとに課題の精選と提出の確認を徹底した。また、計画的に諸テストを行い、授業・補習での確認を実施した。しかし、生徒の日常的な家庭学習の定着へとはつながらなかった。	引き続き各教科、学年部、教務部の連携により、課題の精選に努め、家庭学習の定着を図る。また、生活手帳の有効活用を促す。			
	部活動の振興	生徒	部活動の活性化を図る	・入部勧誘活動の充実 ・活動時間の確保 ・活動環境の整備	B	総体前に総体パワーアップ期間を設定し、全校で盛り上げる雰囲気をつくった。アンケート結果では、教職員と生徒で意識の差がみられた。	主体的に取り組むように全教職員で支援する。部員不足の部活動もあるため、さらに勧誘活動を充実し、解消に努める。	B	部活動の指導に関しては、先生方のご尽力に感謝している。部員不足の部もあるので、今後の対策を考える必要がある。
明るく魅力ある学校づくり	さわやか浜商生の育成	生徒 商業科	さわやかな身だしなみを徹底する。	・全教職員による登校指導 ・定期的な身だしなみ指導 ・日常的な出会い指導	B	身だしなみ指導では、全9回平均で約8割の合格者を出した。全職員で年間を通して登校指導を行い、あいさつや声掛けの継続的な指導が計画通りできた。	身だしなみ指導の時だけきちんとする生徒の意識を変えるために、全教職員の共通理解を図り、指導を継続する。	A	来校者に対するあいさつは非常に良い。身だしなみの乱れも見当たらず、さわやか浜商生としての自覚がしっかりとあるように思う。各種行事は、生徒会の意見を聞きながら、継続して取り組んで欲しい。
			自主的な生徒会活動を支援する	・生徒の自主的な活動の奨励 ・生徒会の主体的活動への支援 ・定期的な生徒会通信の発行	B	生徒会を中心とする生徒の主体的な活動を支援し、生徒も積極的に活動した。生徒会通信も定期的に発行できた。	生徒会の意見を尊重しながら、さわやか浜商生の育成を目指し、今後も継続的に支援していく。		
	スペシャリストの養成	商業科	商業に関する高い専門性を持った人材を育成する 社会の変化に対応できる適応力を持った人材を育成する	・検定パワーアップ期間の充実 ・高度取得を目指す生徒に対する学習支援 ・IT人材育成事業の実施	B	検定については、パワーアップ期間を設定し、1年生の合格率が上昇した。IT人材育成事業は計画通りに実施し、教職員・生徒ともに理解が深まり、具体的なビジネスプラン提示など成果が見られた。	検定については、授業展開・指導方法の工夫改善により、さらに合格率の向上を図る。IT人材育成事業で得たノウハウを定着・発展させ、より高い専門性を持った人材の育成に努める。	B	検定資格へのチャレンジ精神は素晴らしいと思うが、合格率が今一つなのが気になる。自学の意識を向上させて、合格率アップを目指して欲しい。
	創造力のある生徒の育成	総務 教務	読書環境を整備し、読書習慣の確立を支援することで生徒の創造性を育てる	・朝読書の支援 ・利用しやすい図書館づくり ・図書館だより等の定期的な発行	B	たより等は定期的に発行できたが、図書委員以外の生徒を巻き込んでの作成はできなかった。図書館の貸し出し冊数は昨年比で増加した。	読書活動の支援は、読書に前向きに取り組めるような働きかけをする。読みたいような紙面づくりと図書館に行きたくなくなる仕掛けを考える。	B	図書館だより等、図書についての対応に力を入れているが、図書館司書と協力して、更に充実に向けて取り組んで欲しい。
	家庭・地域との連携	総務 商業科	校外での活動を通して、地域に貢献するとともに、浜商の魅力アピールする	・地域行事への積極的参加 ・浜商デパート等の販売実習の充実 ・課題研究の充実 ・「地域系部活動推進事業」への参加	A	地域系部活動推進事業、IT人材育成事業、浜商デパート、BB大鍋フェスティバル、小学校プログラミング教室、中学校マナー指導など、関係機関との連携に積極的に取り組んだ。	各学科の特色を生かしながら、地域との交流学習や異校種（小・中・大学等）との交流や共同学習を積極的に図る。	A	地域行事やボランティア、異校種交流に積極的に参加していることは評価できる。生徒募集にもつながっている。
	魅力の発信と生徒募集	総務	ホームページを充実させ、情報発信に努める	・ホームページの内容の充実と更新 ・報道機関等への情報提供	B	ホームページは、各種行事の様子や部活動の大会結果を中心に情報提供できたが、新たなホームページの構築まではできなかった。新聞等のメディアには数多く取り上げてもらい、市民の好意的な意見をいただいている。	予算の裏付けがあれば業者に依頼して、生徒・保護者・地域には有意な、教職員には情報を提供しやすいものになるよう、ホームページを再構築する。	B	SNSの効果は絶大である。このことから今まで以上のホームページの充実を望む。
安心・安全な学校生活	一人ひとりの人権への配慮	人権・同和教育 生徒	他人を思いやる心を育み生徒が安心して生活できる学校を目指す	・人権・同和教育LHRの充実 ・生徒意識調査を活用しての実態把握 ・差別に対する実践的態度の育成 ・アンケートQUの活用	B	人権・同和教育LHR、さわやかステージは各学年会・生徒会と連携して実施できた。生徒意識調査を計画通り実施し、問題の早期発見・早期解消へとつながった。アンケートQUを活用した研修を行い、クラス経営の参考となった。	今後もいじめは絶対に許さない意識で、生徒の変化や気持ちを大切に受け止めて早期対応をする。人権・同和教育推進委員会の活性化と、校外の研修等に参加して、伝達講習などの啓発活動に努める。	B	「入学してよかったか」の質問に対する肯定的な回答ではなく、否定的な回答にも目を向け、その原因・理由を分析する必要があるのではないか。
			安心・安全な生活環境の整備	保健相談 総務 生徒 事務	生徒の健康状態を把握し適切な健康管理を行う	・朝の健康観察の実施 ・健康の保持・増進のための啓発活動 ・スクールカウンセラーの活用 ・生徒サポート委員会の充実	A	毎朝の健康観察や保健便りの発行を通して生徒の健康の維持・増進が図られた。企画会やサポート委員会により情報共有が図られ、SCの効果的な活用や校外機関との密な連携につながった。	今後も、健康観察や健康情報の発信により、疾病やけがの予防に努める。諸会議をさらに活性化し、要支援生徒の実態把握と支援策の構築を図る。
	安全指導を実施するとともに、安全点検を徹底する		・防災避難訓練の充実 ・校内の危険箇所の点検 ・緊急連絡対応訓練の実施 ・緊急メールを利用した情報提供	A	防災避難訓練・安全点検は計画通り実施できた。また、緊急連絡対応訓練では具体的な場面を想定して行い、教職員の意識の高揚と理解へとつながった。	危険箇所の把握と修繕への迅速な対応、危機の未然防止策、生徒相互の危機対応策の改善と検証を進める。			
進路実現の支援	キャリア教育の推進	進路指導 商業科	望ましい勤労観・職業観の育成に努め、生徒の自己実現を支援する	・学年毎の進路集会の充実 ・適切な情報提供やガイダンス ・インターンシップの主体的参加 ・キャリア教育全体計画の再構築	B	今年度は、職業別ガイダンス、進路別ガイダンスに加え、地元企業との懇談会や卒業生によるパネルディスカッション、進路講演会、合同企業説明会を実施し、進路決定における必要な情報を提供できた。	「今と将来」、「学校と社会」を結び付けた三年間を見据えたキャリア教育の構築を図る。模試、講演会、ガイダンス等を有効活用し、進路意識の向上に努める。	B	積極的なインターンシップを行うことで、企業との関係を深めることが重要である。中学生とは職業に対する意識が違うので、1週間など、長期のインターンシップを考えてもいいのではないかと。
	個に応じた進路指導	進路指導	生徒の資質、適性、志望に応じた進路指導を目指す	・きめの細かい生徒面談の実施 ・小論文・面接指導の充実 ・保護者との連携強化 ・要支援生徒への支援	B	学力に応じた進路目標ではなく、適性、志望を優先した目標設定、目標達成できるように支援できた。補習、小論文・面接指導、各種テストなどにより必要な学力が身につく、多くの生徒が進路目標を達成できた。	生徒の適性や志望に応じた進路指導と、目標達成に必要な学力の育成に努める。職種に関する知識と自己の適性を正確に把握するための応募前企業見学の奨励を継続する。	B	就職や進学先が多岐にわたっている結果からも、進路指導に関して、学校として大変よく働いていただいていると思う。今後も生徒一人ひとりの進路希望に沿った指導をお願いし、進路実現につなげていただきたい。
	外部機関との連携	保健相談	行政・企業・上級学校との連携を行い、就業先・進学先の確保と情報収集に努める。	・企業・上級学校訪問の推進 ・ハローワークとの提携 ・取得した情報の迅速な提供	B	進路希望調査を基にした企業訪問を実施し、得た情報を生徒、担任に提供できた。また、外部機関と連携して合同企業説明会を実施し、地元企業に関する情報と進路を考える機会を提供した。	外部との連携をさらに強化し、生徒、保護者、担任が望む情報の収集と迅速な提供に努め、進路決定を支援する。		